聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」
「直ぐな心で（ヨシェル）」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う
　　詩篇 119：7、エペソ人 6：5「*真心から*」、マタイ 13：44－46
しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

→2ダイナミックな多角的、立体構造：
　神の視点、人類史に先立って配備された摂理
→3古代ヘブル（イスラエル）史を通して記された正確な人間史：
　過去（史実）を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

使徒パウロの宣教　　その8

パウロの第二次宣教旅行　　―続き―

→使徒の働き17：1－18：22

→テサロニケ
→ベレヤ
→アテネ
→コリント
→ケンクレヤ
→エペソ
→カイザリヤ
→エルサレム
→アンテオケ

使徒の働き
17章（新改訳2017）

：1「*パウロとシラスは、アンピポリスとアポロニアを通って、テサロニケに行った…*」：
　✶パウロとシラス、名高いローマの道「**エグナティア街道**」を通ってテサロニケへ向かった

テサロニケ
☆マケドニヤの首都
☆アレク（キ）サンダー大王の四大将軍の一人、カサンダーによって築かれた
☆パウロの時代、おそらく人口二十万人

：2「*パウロは…<u>三回の安息日</u>にわたって、聖書に基づいて彼らと論じ合った*」（下線付加）：
　✶三週間の福音宣教
　✶この滞在期間にパウロが何をテサロニケの人々に教えたか
　　→『*テサロニケ人への手紙*』
：3「*…キリストは…死者の中からよみがえらなければならなかった…と説明し…論証した*」：
　✶パウロのアプローチは聖書解説、―聖書、主キリストと自分との関係―
　✶これはキリストのアプローチ
：5「*…ユダヤ人たちはねたみに駆られ…町を混乱させ…<u>ヤソン</u>の家を襲い…*」（下線付加）：
　✶おそらくパウロの親類　　→ローマ人16：21
：6「*…『世界中を騒がせて来た者たちが、ここにも来ています*」：
　✶「福音によって偽りが訂正された」が真相!?
　✶初代教会時代、信徒たちへの迫害は、ユダヤ人によって引き起こされた

聖書

：7「*…イエスという別の王がいる』と言って、カエサルの詔勅に背く行いをして…*」：
　✶皇帝に背くことは、大逆罪
：8「*これを聞いた群衆と町の役人たちとは動揺した*」：
自由都市テサロニケ
☆アントニウスとオクタヴィアヌスの連合軍、ピリピで勝利をあげた後、テサロニケに滞在
☆戦いでの協力が感謝され、テサロニケはアテネのような自由都市に
☆自由都市テサロニケでは、神の御国の説教は、ローマ帝国下で「自由」の身分の特権を
　与えられていた住民にとって特権を失う脅かしであった

：9「*役人たちは、ヤソンとほかの者たちから<u>保証金を取ったうえで釈放した</u>*」（下線付加）：
　✶自由市民、紛争を起こして、ローマ帝国からにらまれることを恐れた
：10「*兄弟たちはすぐ、夜のうちにパウロとシラスを<u>ベレア</u>に送り出した…*」（下線付加）：
　✶テサロニケの南西、山のふもとの人里離れた小さな町
：11「*この町のユダヤ人は…非常に熱心にみことばを受け入れ…毎日聖書を調べた*」：
　✶テサロニケの人々、議論で説得された
　✶ベレヤの人々、霊的に感知して信じ、なお、御言葉を探究した
　✶ベレヤの人々、神の言葉に従い、取り次いだ「人」に従うようなことは決してなかった
：15「*パウロを案内した人たちは、彼をアテネまで連れて行った…*」：
　✶シラスとテモテ、教会設立のために、ベレヤに残された
　✶テモテ、コリントでパウロに合流、すぐに、テサロニケへ遣わされた

アテネ
☆アテネはアカヤ地方に属し、アカヤ地方の主都はコリント
☆アテネは大学の中心地、偉大なる哲学者たちの相続、継承の町
　ソクラテス、プラトン、アリストテレス等々

：16－18「*…パウロはアテネで…町が偶像でいっぱいなのを見て、心に憤りを覚えた…*」：
　　✶観光の町アテネ
　　†まつられている神々は三万以上
　　†パルテノン神殿を王冠としてアクロポリスの諸神殿、劇場、集会場に取り囲まれた町
当時の主要なグループ
☆**エピクロス派**、快楽主義
　☆神の存在と死後の生命を否定、この世の快楽が人の存在の最終目的
　☆まじめな弟子は、享楽的ではなく実存主義者で、刹那（せつな）の経験に生きていた
☆**ストア派**
　☆すべてが神で神がすべて、生命は死後、代替可能と信じる汎神論者
　☆生活姿勢は、究極の諦め、運命論的で情熱のない適合
☆快楽主義はギリシャ人に人気、ストア派はローマの精神に順応

：19「*そこで彼らは、パウロを<u>アレオパゴス</u>に連れて行き、こう言った…*」（下線付加）：
　✶裁き司の法廷、アクロポリスの北西の岩の丘
　✶パウロ、三万にも及ぶ偶像の神々崇拝の地のアレオパゴスで、
　　学識を駆使して、古代の有名人の言葉を引用して論じた
：21「*…みな、何か新しいことを話したり聞いたりすることだけで、日を過ごしていた*」：
　✶アテネの町全体の雰囲気、大学のようであった
　✶アテネでは、新しいアイデア、新しい考えの交換が公衆の娯楽
：22「*…アテネの人たち。あなたがたは、あらゆる点で宗教心にあつい方々だと…*」：
　✶パウロ、アテネの人々の目線からメッセージを始めた
　✶パウロ、彼らを公然と非難するのを避け、偶像崇拝<u>を攻撃しなかった</u>
：23「*…あなたがたが<u>知らずに拝んでいるもの、それを</u>教えましょう*」（下線付加）：
　✶「あなたがたはその方を知らないで拝んでいる、その方を」の意

：24「*この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから…*」：
✶パウロ、神による創造を証言
✶創造の考えは、古典文学や古代哲学のどこにも見い出だせない
：25「*また、何かが足りないかのように、人の手によって仕えられる必要もありません…*」：
✶神は、ご自身に必要なものがある方ではなく、与える方、
—礼拝のための建物も、人の手に成るものに仕える祭司も要らない—
：26「*神は、一人の人からあらゆる民を造り出し…それぞれに決められた時代と…*」：
✶ストア派の宿命論やエピクロス派の刹那論とは対照的
：27「*それは、神を求めさせるためです。もし人が手探りで求めることがあれば…*」：
✶神は探り出すことのできる方
➞エレミヤ書29：13－14
：29「*そのように私たちは神の子孫ですから、神である方を金や銀や石…*」：
✶生きて働く神の似姿、人は、生命に対し情熱的
✶創作、発明、生産、形成、達成、征服等々、人は新しい試み、目標に意欲的、
これは神に似せて作られた人の最大の威厳
：30「*神はそのような無知の時代を見過ごしておられましたが*」
✶人に責任が問われるべき数々のことが裁かれずに許されてきた
「*今はどこででも、すべての人に<u>悔い改め</u>を命じておられます*」（下線付加）：
✶キリスト信仰の普遍的特徴
✶対象はすべての人
✶神に対する人の義務は「悔い改める」こと
✶人は、道徳的要求を否定するために、神不在を逃げ口上にする
➞詩篇14：1
：31「*なぜなら、神は日を定めて、お立てになった一人の方により、義をもって…*」：
重要な三点
1. 逃れることのできない日
神、この世を裁くときを定められた
2. とこしえに不変の裁き司
3. 反駁できない事実、—甦り—

：32「*死者の復活のことを聞くと、ある人たちはあざ笑ったが、ほかの人たちは…*」：
✶あざ笑い、誇りの防御反応
：33「*こうして、パウロは彼らの中から<u>出て行った</u>*」（下線付加）：
✶パウロ、不真面目、道徳的不正直に忍耐がなかった
：34「*ある人々は…信仰に入った…<u>アレオパゴスの裁判官ディオヌシオ</u>…*」（下線付加）：
✶聖書外の資料による伝説では、アテネの群衆の裁き司として任命された
✶今日、ギリシャ正教会は無気力で活気がなく、典礼、儀式、伝統に沈みこみ、
福音派教会を迫害

18章（新改訳2017）

：1「*その後、パウロはアテネを去って<u>コリント</u>に行った*」（下線付加）：
✶アテネでは知恵の女神ミネルバ、コリントでは愛の女神ビーナスがまつられていた
✶二都市は奴隷になった双子
アテネは知的な誇りの奴隷となり、コリントは官能的な欲望の奴隷となった
コリント
☆ジュリアス・シーザー、コリントをローマ管轄下のギリシャ州アカヤの首都にした
☆コリントは芸術の都
☆建築は、史上至高を達成
☆女神アフロディテの崇拝の中心地で、一千人の神殿娼婦がいた

パウロ，コリントにて
☆おそらく二年間滞在
☆『*テサロニケ人への手紙*』を執筆
☆『*テサロニケ人への手紙第一*』は、テモテがコリントでテサロニケの報告をしたことへの応答

：2「*…ポントス生まれでアキラという名のユダヤ人と、彼の妻プリスキラに出会った…*」：
✶皇帝クラウディウス、おそらく「クレスト」による扇動でローマからユダヤ人を追い出し
✶パウロの宣教に深く関わることになったユダヤ人夫婦
：3「*自分も同業者であったので、その家に住んで一緒に仕事をした…職業は天幕作り…*」：
✶パウロ、生計を自分自身の仕事、天幕作りでまかなった
✶天幕は、キリキヤの特別な種の山羊の毛で作られた
：5「*シラスとテモテがマケドニアから下って来ると、パウロはみことばを語ることに…*」：
✶テモテ、テサロニケから信仰と愛の良い知らせを運んできた
→それ以降、パウロ、御言葉宣教に集中
：6「*…パウロは衣のちりを振り払って言った…今から私は異邦人のところに行く。』*」：
✶独立して行動を始めたパウロ、危険に接近、神の守りが必須であった
→9－10節
：8「*会堂司クリスポは、家族全員とともに主を信じ…バプテスマを受けた*」：
✶ユダヤ教の会堂の長クリスポ、キリストを受け入れた
✶パウロ自身から洗礼を受けたのは、ほんの少数の人々
：10「*わたしがあなたとともにいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない…*」：
✶ユダヤ人の陰謀、抵抗、抑圧の増大にもかかわらず、主の励ましはパウロに
御言葉を語り続ける力を与えた
：11「*そこで、パウロは一年六か月の間腰を据えて、彼らの間で神のことばを教え続けた*」：
✶パウロ、この不道徳な都で労苦して福音宣教に努めた結果を後に、
『*コリント人への手紙*』に記した
：12「*ところが、ガリオがアカイアの地方総督であったとき、ユダヤ人たちは…*」：
✶ギリシャの支配者ガリオは、高名な哲学者セネカの兄弟で、
クラウディウス帝の後、皇帝になり、セネカとネロに死刑判決を言い渡した
：16「*そうして彼らを法廷から追い出した*」：
✶ガリオが下した非常に重要な裁断
✶パウロは今、ローマ帝国で、自由に福音を語ることができることになった
✶ガリオ、事実上、キリスト信仰はローマ人の目にはユダヤ人セクトであると、宣言
✶ビジョンの中で主が約束された通りに、パウロ、敵対するユダヤ人たちの攻撃から守られた
：17「*そこで皆は<u>会堂司ソステネ</u>を捕らえ、法廷の前で打ちたたいた…*」（下線付加）：
✶クリスポがキリスト信仰に回心後、クリスポの後任者になった
✶ソステネも後に回心
→コリント第一1：1
：18「*…パウロは誓願を立てていたので、ケンクレアで髪を剃った*」：
✶コリントの東の港
✶パウロの誓願の類、理由、時期はいずれも明らかでない
✶パウロ自身はユダヤ人として、儀礼上の掟を守り続けていた
✶時期の可能性
†マケドニヤに向かってトロアスを去ったとき
†コリントで宣教を始める最初の時点
†主がパウロにビジョンの中で語られる以前、すでに誓いを立てていた
✶誓願の間、パウロは髪を伸ばし、今、このナジル人の誓いが終わった時点で散髪
：21「*『神のみこころなら、またあなたがたのところに戻って来ます』と言って別れ…*」：
✶後にパウロ、エペソに戻り、二年間滞在